

授業科目	嚥下障害Ⅱ（訓練と画像診断）				
担当者	田上恵美子・戸倉晶子				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ・ 摂食・嚥下障害の基本的な訓練法について学び、訓練計画を考える。(田上)
- ・ 嚥下造影検査(VF)・嚥下内視鏡検査(VE)の目的、手順、解析方法について学習し、実際の画像を用いて症例検討を行う。(戸倉)

■ 到達目標

- ・ 臨床上必要な知識を身につけ、手技を実践できるようになる。(田上)
- ・ VF・VEの評価方法を習得し、嚥下障害の症状を理解できるようになる。(戸倉)

■ 授業計画

- 第1回 嚥下関連筋の解剖、呼吸・構音器官評価の復習(田上)
- 第2回 評価内容の解釈、訓練項目の組み立て、訓練法の実際Ⅰ(田上)
- 第3回 評価内容の解釈、訓練項目の組み立て、訓練法の実際Ⅱ(田上)
- 第4回 間接訓練(呼吸・咳嗽など)演習(田上)
- 第5回 間接訓練(頸部・顎・シャキア・メンデルソンなど)演習(田上)
- 第6回 間接訓練(舌・口唇・軟口蓋・ガムラビングなど)演習(田上)
- 第7回 直接訓練(頸部聴診・意識嚥下・横向き嚥下・ひと口量・丸のみ・顎引き・頭頸部など)(田上)
- 第8回 直接訓練(複数回嚥下・交互嚥下・一側嚥下・姿勢など)演習(田上)
- 第9回 姿勢調整・介助法(田上)
- 第10回 経口移行の目安、段階的摂食訓練(田上)
- 第11回 嚥下造影検査の目的・手順について(戸倉)
- 第12回 嚥下造影検査による評価、解析方法(戸倉)
- 第13回 症例検討(戸倉)
- 第14回 嚥下内視鏡検査による評価(戸倉)
- 第15回 嚥下造影検査と嚥下内視鏡検査の比較、まとめ(戸倉)

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

予習・復習を行うこと。また、空き時間を利用して実技の練習も積極的に行い、知識と技術の習得に努めること。

■ 教科書

書 名：言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学
 著者名：倉智雅子
 出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

書名：脳卒中の摂食・嚥下障害 第2版

著者名：藤島一郎

出版社：医歯薬出版

書名：目で見る嚥下障害－嚥下内視鏡・嚥下造影の所見を中心として

著者名：藤島一郎

出版社：医歯薬出版

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって